

日時 : 令和5年2月21日(火) 13:30~14:50
場所 : 留萌開発建設部 1階 大会議室
参加機関 : 留萌開発建設部、留萌振興局、留萌市
旭川地方気象台(Web)、留萌南部森林管理署
(順不同)
会議資料 : 留萌開発建設部 ホームページに掲載



<議事(1) 流域治水協議会の経緯と今後の進め方について> 資料1

令和2年8月に「留萌川流域治水協議会」が設置され、令和3年3月に「留萌川流域治水プロジェクト」を策定し、公表した。

流域治水プロジェクトの充実を図るため、令和3年度には事業効果、進捗状況が見える化し、外水氾濫を対象とした河川改修事業による効果を公表した。また、指標を活用して流域治水プロジェクトの更なる推進を図るために、ハード、ソフトの主要な取組の進捗状況を公表した。

本協議会においては、流域治水プロジェクトの更新案について議論いただき、3月に書面にて開催予定の第8回留萌川流域治水協議会で承認を頂いた後に、「留萌川流域治水プロジェクト」を更新し、公表を予定している。また、流域治水の取組実践時に活用いただくため、令和4年12月に国土交通本省が作成した各施策の目的、内容、支援策等が記載された「流域治水施策集」、全道他河川での流域治水プロジェクトの取組事例を共有した。

<議事(2) 留萌川におけるリスクマップについて> 資料2

水害リスク情報の活用として、浸水範囲と浸水頻度の関係を図示した水害リスクマップを外水に加え内水も考慮して検討を行っている。

水害リスクマップは、高頻度から低頻度の確率規模毎の浸水範囲を図示している。これに加えて、確率規模毎の浸水深を図示した多段階の浸水想定図も作成している。

<議事(3) 地域(住民)の参画にむけて> 資料3

令和3年度より流域治水に関する認知向上を図るための情報提供や広報活動を継続して行っている。今年度は、これに加えて、地域へ積極的に説明を行い意見の収集を行った。

今後は、地域と一体となり流域治水に取り組み、取組の充実と拡大を目指していきたい。

9月11日に開催された「るもい川まつり」や12月19日に開催された「留萌管内北海道地域防災マスターフォローアップ研修」において、参加者へアンケート調査を実施した。地域の方からは、「水害リスクマップで浸水頻度について知ることができた」、「治水の必要性が理解できた」などの意見が寄せられた。

<議事(4) 流域治水に関する取組とフォローアップについて> 資料4

【留萌開発建設部】

「氾濫をできるだけ防ぐ、減らすための対策」として、留萌川河口部の導流堤改築と河道掘削を実施した。「被害範囲を減少させるための対策」として、水害リスクマップや多段階の浸水想定図を作成し、ホームページで公開した。「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」として、水害リスクマップを活用した関係機関協議や防災教育、FMもえる・Twitterでの情報発信、パネル展示にて流域治水の広報活動を実施した。「グリーンインフラの取組」として、河川に生息する生物の調査を基にした保全の取組や河川協力団体によるやまべの稚魚放流の支援を実施した。

これらは、次年度以降も継続して取り組んでいく。



<議事(4) 流域治水に関する取組とフォローアップについて> 資料4

【留萌振興局】

タルマップ川の河道掘削の工事着手に向け調査設計を実施した。令和5年度に工事着手を予定している。

市街地において急傾斜地崩壊防止施設による斜面の安定化、砂防堰堤の設置による土砂の捕捉・抑制を行うことで下流河川への土砂流出防止や洪水氾濫の軽減を図っている。

農地周辺の既設排水路のコンクリート装工を行い排水機能の向上を図るとともに、農地の大区画化に合わせて畦畔の盛土を行い貯留機能の確保を行った。

山地災害から流域を守る土砂災害対策として治山ダムの整備、森林の水源涵養機能の維持・向上を図るため、植栽や間伐等の森林整備を地元の要望を踏まえ実施していく。

【留萌市】

留萌開発建設部とハザードマップの協議を行い、ホームページにて留萌川多段階浸水想定図、水害リスクマップを掲載している。留萌川上・中流域で浸水が比較的早期に起きるリスクが高い地域において避難経路、避難場所の整備の必要性について検討している。

留萌川流域タイムライン、留萌市タイムラインを今年度策定した。今後、マイ・タイムラインの普及を検討していく。

要配慮者施設の避難確保計画は対象全施設で策定した。今後は訓練の実施率を高められるように働きかけていく。

潮静小学校で防災教育、南町地区で土砂災害訓練、地域の要望に応じて防災講話、自主防災活動へ出張講座を実施した。今後も取組を継続し、更なる普及を目指す。

FMもえるの電波を活用した緊急割り込み放送訓練を実施した。この放送が自動起動する緊急防災ラジオを令和3年度から配布している。スマートフォンを活用した防災情報のプッシュ配信はヤフー防災専用アプリやFMもえるを活用し、情報伝達の多重化に取り組んでいる。

市民の流域治水に対する認知度はまだ低いと認識している。線状降水帯による大雨災害を鑑みると流域治水の考え方を市民に伝え、自ら命を守ることを考えてもらいたい。防災部局を中心に関係部局と連携し、様々な取組を関係機関とともに行う。

【留萌南部森林管理署】

森林整備では水源涵養土砂流出および洗堀防止等の機能の維持向上のため、間伐、主伐を実施している。主伐箇所では植え付け、下切り等の保育作業を行い、森林機能の増進を図る。今年度、留萌川流域では主伐を約2ha、間伐を約151ha、植え付けを2ha、保育作業を14haで実施した。令和5年度は保育作業を198ha予定している。下流域を土砂災害から守ることを目的とした治山対策では渓床勾配を緩やかにし土砂の流出を抑制する治山ダム等の整備を実施している。現状では土砂流出は確認されていないため、融雪期や豪雨後の巡視、既存施設の状況確認を実施している。



<議事(4) 流域治水に関する取組とフォローアップについて> 資料4**【旭川地方気象台】**

あなたのまちの予報官TVでは管内の市町村、振興局を対象とし、zoomを通して1週間の気象解説を令和3年12月から週2回定期的
に実施している。今年度は台風接近時等に開発建設部と連携して
臨時開設を実施した。臨時開設や関係機関との情報発信の充実を
図る。

気象防災ワークショップでは架空のまちで起きた中小河川での洪水、土砂災害の疑似体験を通して議論した。上川、留萌地方の7会場で行った。従来ある警報、気象情報や危険度分布を示す洪水キキクル、土砂キキクルの読み取り方など、雨量ではない気象情報の活用について理解を深めていただいた。他の参加者が持つ知識、経験の共有から気づきの効果があると思う。災害時の対応判断、防災情報の位置づけに効果的であったとの感想を得た。

観測の強化、気象情報の改善を毎年行っている。線状降水帯の予測も精度向上のため作業を進めている。大水害は流域での広い範囲の雨量がポイントとなるため、流域雨量の予測資料の提供に力を入れていく。

**<議事(5) 流域治水プロジェクトの更新(案)について>** 資料5

魅力ある水辺空間・賑わいを創出するため、グリーンインフラの新たな留萌市の取組内容に「水辺の賑わい空間創出」を追加する。また、ロードマップにも「水辺の賑わい空間創出」を追加し、実施主体を留萌開発建設部、留萌市とする。

国土交通本省との協議・調整によって、事業効果の見える化の記載内容の変更を行う場合がある。また、流域治水プロジェクトの指標となる各取組の進捗率は現在、国土交通本省で集計を行っており、確定次第資料に反映する。

第8回流域治水協議会(書面開催)では、修正した資料を共有し、今年度内には新たな流域治水プロジェクトとして公表する予定である。